

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【公開番号】特開2010-202829(P2010-202829A)

【公開日】平成22年9月16日(2010.9.16)

【年通号数】公開・登録公報2010-037

【出願番号】特願2009-52195(P2009-52195)

【国際特許分類】

C 0 8 J 9/26 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 9/26 1 0 2

C 0 8 J 9/26 C E S

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月26日(2012.1.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 0】

[実施例 1]

粘度平均分子量 (M_v) 25 万の高密度ポリエチレン「SH800」(旭化成ケミカルズ(株)製、融点 135.5℃) 12.8 質量部、M_v 100 万の超高分子量ポリエチレン「UH650」(旭化成ケミカルズ(株)製、融点 136.6℃) 19.2 質量部、平均一次粒径が 15 nm であるシリカ「LP」((株)東ソー・シリカ製) 20 質量部、酸化防止剤 0.3 質量部、可塑剤としてフタル酸ジヘキシル(DOP) 48 質量部をヘンシェルミキサーで混合して造粒した。その後、T-ダイを装着した二軸押出機にて 200℃で混練・押出し、厚さ 100 μm のシート状に成形した。該成形物から塩化メチレンにて DOP を抽出除去し微多孔膜とした。該微多孔膜を 2 枚重ねて 130℃に加熱のもと MD に 5 倍、ロールにて延伸した後、最大温度 140℃に加熱のもと TD に 1.7 倍、テンターにて延伸した。

得られた膜は、MD の引張強度 29 MPa、TD の引張強度 5 MPa、平均孔径 0.20 μm、最大孔径 0.27 μm であった。製膜条件およびその他の膜特性を表 1 に示す。